

かぬまの環境を地域と共にはぐくむ情報紙

かぬまの環境情報紙

名まえをつけてね



No.1

平成26年8月25日



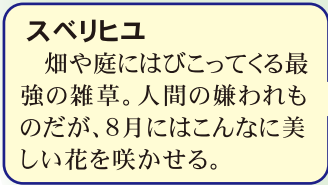
ペニシジミ

春から秋まで、野原や土手でよく見かける小さなチョウ。ふだんあまり気にしないが止まっているところをよく見ると、こんなに美しい。



ナズイセン

8月の頃、畑や田んぼのあぜで、大きな株になって咲いている。昔は、この株があると残して草刈りをしたのだが、最近はあまり見られなくなってしまった。



スベリヒコ

畑や庭にはびこってくる最強の雑草。人間の嫌われものだが、8月にはこんなに美しい花を咲かせる。



キツネノカミソリ

お盆を過ぎると、林の縁などの日当たりのよいところで群落になって咲いている。この花を見ると、秋の近いことを感じる。



ウスバキトンボ

春、南方から九州に渡ってきて北上をつづける旅するトンボ。8月頃には関東地方に到着する。お盆の頃多く見られるので精霊トンボなどとも呼ばれている。

写真・解説：鹿沼自然観察会

環境情報紙の創刊に寄せて

鹿沼市長 佐藤 信

近年、豪雨被害、突風被害や大雪被害など、地球環境の変化が原因と思われる自然災害が頻発しており、環境問題は大きな課題になっています。

清らかな水と豊かな緑に恵まれた環境で生活している私たちは、自然の中での潤いのある生活環境を、次の世代の子どもたちに引き継いでいかなければなりません。

そこで、情報の発信源のひとつとして「環境情報紙」を発行することにしました。

「環境情報紙」では、生活の中でできる環境保全の情報やごみ問題などのお知らせ、本市の豊かな自然を紹介するコーナーや市民編集員が取材した市内の環境活動団体を紹介していく予定です。

「環境情報紙」が市民協働の情報紙として、市民の皆様と環境を守るよろこびを共有できるよう、ご支援、ご協力をお願いします。



発行・編集：鹿沼市環境部環境課、鹿沼市環境活動推進会議

〒322-0045 鹿沼市上殿町695-7(環境クリーンセンター)

☎ 0289(64)3194 / FAX 0289(65)5766 / Eメールkankyo@city.kanuma.lg.jp

本紙に関するご意見、ご感想をお寄せください。



この情報紙は全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて発行しています。

エコライフのすすめ

1 マイバッグのすすめ

市では、市民団体等から構成される「環境活動推進会議」が中心となって、「マイバッグの利用促進」に取り組んでいます。



- ・レジ袋を10枚作るのに、コップ1杯の原油が使われています。
 - ・レジ袋の多くはそのまま、「ごみ」として処分されています。
 - ・ごみとして焼却するときは二酸化炭素が排出されます。
 - ・地中や川に捨てられた場合は長い間分解されず、海では、イルカや海ガメが食べて死んでしまうこともあります。
- レジ袋を断つて、マイバッグ・マイバスケットをエコライフのきっかけにしていかがでしょうか。



2 地産地消のすすめ

梨がおいしい季節になりました。市内の梨園でも、もぎたての梨が買えますよね。

地産地消（ちさんちしょう）とは、まさにこれ。地域で生産された農産物などをその地域で消費することです。生産地と消費地が近いと、品物を運ぶエネルギーが少なく、排出物が減らすことができます。

農産物を近所の直売所で買ったり、スーパーでも産地を確認して新鮮な地元のものを選ぶなど、「地産地消」を心がけましょう。



環境課環境保全係

☎(65)1064

市では「きれいなまちづくり推進条例」により、毎年5月と9月の第3日曜日を「環境美化の日」と定めています。当日は自治会等、地域の皆さんと一緒に清掃活動や花いっぱい運動などの環境美化活動を行いましょう。

9月21日(日)に活動できない場合は、前後の日に実施して、環境美化を推進しましょう。

ごみ焼却処理施設の改修

その1

清掃課 ☎(64)3304

今年度から2か年をかけて、環境クリーンセンターのごみ焼却処理施設の大規模な改修を実施します。

これは、施設の長寿命化計画に基づき実施するもので、工事費用は約32億円です。

改修により施設の寿命を平成42年度までの15年間延ばすことができます。また、排熱を利用した発電機の設置や省エネ機器の導入により二酸化炭素排出量を削減するほか、排気ガスの処理能力を高め大気汚染物質の排出をより抑えるなど、さらに地球環境に配慮した施設に生まれ変わります。

工事中は、やむを得ず焼却炉を停止する期間があり、民間の処理施設にごみの焼却を委託することになります。この焼却処理委託にも多額の費用がかかります。この工事を機に、改めて皆さんにごみの減量をお願いします。



ごみを減らすために...

- ・資源物を分別して燃やすごみを減らしましょう。
- ・詰め替え商品を選びましょう。
- ・適量を調理して食べ残しを減らしましょう。



10月16日(木)まで! 「かぬまエコライフモニター」募集中

あなたも「かぬまエコライフモニター」になって、この冬、ご家庭で節電など環境に配慮した取り組みを実践し、環境家計簿で「CO₂（二酸化炭素）の見える化」をしてみませんか？

報告書を提出された人全員に、記念品を差し上げます！

モニター期間	11月～1月までの3か月間
報告内容	電気やガスなどのエネルギー使用量やごみの排出量 省エネやごみ削減の取組内容
募集定員・期間	40人程度（市内在住の人）／10月16日（木）まで
お申込み・お問合せ	環境課総務係（64-3194）へお電話ください。

地球温暖化の原因の一つといわれているCO₂の排出量は少しの努力で、減らすことができます！

★たとえばエアコンで…★（1日当たり）		CO ₂ 削減量
夏	冷房を1時間短縮した場合	58.9g
	冷房の設定温度を27℃から28℃にした場合	94.6g
冬	暖房を1時間短縮した場合	84.6g
	暖房の設定温度を21℃から20℃にした場合	110.0g

100gのCO₂は
500mlのペット
ボトル約100本分！



（参考：家庭の省エネ大事典2012年版）



求む！

環境講座・イベント情報

鹿沼市内で開催される環境に関する講座やイベント情報（12月～2月実施分）を募集しています。いただいた情報は、次号に掲載します。みなさんからの情報をお待ちしています。

- ① 講座・イベント名
 - ② 内容
 - ③ 開催日時
 - ④ 開催場所
 - ⑤ 主催者
 - ⑥ 申込み・問い合わせ
- 先を提出してください。

かぬまの環境情報紙 愛称募集

環境問題を考え、行動するきっかけになる情報紙をお届けします。皆さんに親しまれる愛称をつけてください。

- ・ 募集期間 8月25日(月)～9月30日(火)
- ・ 応募要件 市内に在住または在勤、在学している方

- ・ 応募方法 ①氏名（ふりがな）②住所（市外の方は勤務先または学校名も）③電話番号 ④年齢 ⑤愛称と理由を書いて応募ください。
- 採用者には記念品を差し上げます。

講座・イベント情報、環境情報紙愛称の応募先

鹿沼市環境部環境課に郵送、FAX、メール、または直接持参してください。
〒322-0045 鹿沼市上殿町 695-7 / FAX 0289(65)5766 / Eメール kankyo@city.kanuma.lg.jp

環境活動者紹介コーナー

市内で環境の保全や美化などに取り組む団体・企業などを、市民編集員が取材し紹介するコーナーです。

JR鹿沼駅前清掃で

社会参加 社会福祉法人
希望の家

希望の家では、障がい者の自立した生活を支援する施設を運営しています。

JR鹿沼駅前清掃を行うようになり、4年が経過しました。元々は、施設の職員が施設利用者の乗車マナー確認のため駅に行き、待ち時間にごみ拾いをしていただく、送迎バスを待っていた利用者も手伝ってくれたことがきっかけで、本格的に取り組むようになりました。

平日の7時15分頃から7時55分まで、タバコの吸い殻、空き缶、ペットボトル、弁当容器などのごみ拾いのほか、落ち葉の清掃などを行っています。市民の皆さんから励まし的一声をかけていただけることが励みになるそうです。



JR鹿沼駅前の清掃活動

希望の家では、市の「きれいなつと鹿沼」や、県の「愛ロードとちぎ」などの事業にも積極的に参加しています。

これからも、環境美化と障がい者理解を併せて実現できるように続けたいと、担当の會田さんが語ってくれました。

命あふれる水辺の保全活動 中粕尾水と緑の会

思川の清流を取り入れている中粕尾の和田用水に、周辺の里山を含めた生態系に配慮したビオトープ型の自然空間が整備されて久しくなりました。

ここには、ゲンジボタルをはじめ、多種多様な生きものが生息しており、四季を通して様々な生きものを観察することができます。まさに「命あふれる水辺」です。会長の若林さんにお話を伺いました。

あふれる環境を保全することや、地域の農地や水路などの資源を維持管理する活動を行っています。主な活動は、春の菜の花交流会、夏のホテル観賞会、生きもの調査、草刈り、秋の水路清掃による外来種駆除、小松菜の種まきなどです。生きもの調査では、絶滅危惧種といわれるスナヤツメ、ギバチ、シマドジョウ、ホトケドジョウ、ナベブタムシなどの生息も確認しました。

活動には、地元の会員だけでなく、各地からボランティアや親子連れなど多数の参加があるとのこと。自然環境を守ることの大切さを共感しあい、世代間や都市住民との交流を深めたいと感じました。



生きもの調査

編集後記

いろいろな団体が地道な取り組みを長年続けてこられた努力に頭の下がる思いがしました。この情報紙は産声をあげたばかりです。これから、読者のみなさんと共に成長していきたいと願っています。【環境活動推進会議編集員：落合、佐藤、廣田】



秋に種をまいた菜の花畑